



第8回 日本構造医学会 福岡学術会議特集

Annual Meeting of Japan Society of Structural Biomedical Science

2003年10月25日 福岡国際会議場

日本構造医学会の第8回福岡学術会議（大会実行委員長・進英文氏）が、10月25日、福岡国際会議場（福岡市博多区）国際会議室において開催され、全国から学会員約220人が参加した。

今大会は、吉田勸持会長による基調講演『生命体の構成と機能』のほか、住岡輝明氏（水前寺診療所所長）による教育講演『脳の構造——最新の知見や構造医学的な見地からみて』、さらに16題の一般演題と2題のポスター発表が行われた。また、隣室のプレzensルームでは『新医療技術開発機構プレzens』と題し、日常生活指導用具、臨床補助用具、機能訓練用具、教育用具として構造医学関連の機器や治療器具、健康食品、書籍などが展示された。さらに、スクリーンで大会の様子が中継されたほか、モニターでは治療器具を解説したビデオなどが上映され、多くの参加者から関心を集めた。

大会では、まず進実行委員長があいさつで、「今年、昨年度からスタートした一連の構造医学認定講義が終了し、指導員養成カリキュラムを確立した年でもあります。そして、日本構造医学会の学術大会も第8回を迎え、演題の発表内容もますます充実し、臨床に役立つ演題も多くみられます。なかでも、新医療技術開発機

構による産学連携の苦労話が発表されることは、たいへん意義深いことだと思います」「また、吉田会長が言われるように、構造医学の学習はその基底にあるものの考え方を消化し、ものごとの真実を把握することが究極の目的だということを、この学術大会を通じてあらためて認識していただきたいと思います」と述べた。

社会との関わりを重視

つづいて吉田会長があいさつし、「今年も学術大会の時期を迎え、会員の方々とともに日々の研鑽や日ごろ感じたことを共有できる、すばらしい場だと感じています」「また、構造医学はこれまで、生命と社会との関わりについて幅広い視野からとらえてきましたが、そのなかでも産学連携という形での社会との関わり、患者さんの健康や生活そのものの保全という点で、いかに実態を伴って関わっていけるかを重視してきました」「この学術大会では、理科・文科などの専門領域の垣根を越えて、演者・参加者双方の日々の研鑽を持ち寄って共有することができれば、大きな財産になるのではと思います」と述べた。

引き続き一般演題16題の発表が行われ、吉田



開会のあいさつをする吉田会長

会長による各演題の総括で締めくくり、さらに隣接の福岡サンパレスホテル「パレスルーム」での懇親談話会へと場所を移し、学術大会の全日程を終えた。

今回の学術大会では、発表演題のテーマも多岐にわたり、その研究手法においても各テーマに沿った独自性がみられたことが印象的であった。実際、大会終了後には参加者から「発表内容だけではなく演者の臨床現場をイメージすることで、疑問も感じる一方、逆に行間を読むように深く伝わってきた」「形式的なうわべだけの発表に終始せず、臨床や研究段階での“練り”“深み”のようなものが感じられる演題が多かった」などの声が聞かれ、内容の充実とともに盛会裡に行われた学術大会の開催となった。

なお、次回第9回学術大会は来年10月9日(土)、大阪市のコスモスクエア国際交流センターで開催される予定(詳細はP.26を参照)。

第8回福岡学術大会で発表された一般演題、ポスター発表は以下のとおり。

一般演題:▽他科(接骨院)の協力を得た歯科治療例(本多武・湯澤真・菊池宏之・成田哲也)▽私の薄膜貼付法とその臨床応用について(松村圭一郎)▽キャンバストラックと自動昇降ベッドによる置性系下でのWB整復法(佐保隆司)▽関節可動域訓練の再考——一般病院理学療法



メイン会場となった国際会議室

士の立場からの構造医学(山本泰司)▽構造医学的視点から診た咬合について(貞永嘉浩)▽歯列弓の拡大を応用した矯正歯科治療により、副鼻腔面積の可及的保存を行い、脳冷却機能を維持する試み(山下道也)▽頸椎へのリダクター使用が顎運動に及ぼす影響について(山下道也)▽両側性変形性股関節症の一症例について——体験談をまじえて(柴田宗孝)▽The Shape of Bones——人間の硬組織のらせん性と左右対称性(秋田浩)▽私たちが学会会員です——産学連携事業の相互貢献(新医療技術開発機構)▽出産後の養生法について(伊井一博)▽構造医学を学んで——腹帯を産後のケアに取り入れて(大滝厚子)▽コクシクスサポートプレスエアーの使用効果と問題点について——モニターによるアンケート結果と脊柱側弯症患者の計測結果(田所生利)▽高気圧エアー・チャンバー治療を経験して感じたこと、その注意点について(佐々木光宏・伊井一博)▽歩行と地域特性(松本利則)▽簡易トランポリンを使った加速度整復法の一考察(細見敏郎)▽大腿周径差パート2(澤田義雄)

ポスター発表:▽構医アプローチにより治療した偽関節(上腕骨骨幹部骨折)の経過について(鹿山邦彦)▽非荷重の終着点(アキレス腱断裂について)(鹿山邦彦)